

## (1) FIT制度見直しの動きの「新エネルギー」への反映について

- ・2020年度中にFIT制度の改正が予定されており、現在国において議論がなされているところ。
- ・改正案がいつ示されるのかは未定であるが、中間とりまとめ（R01.12.12）で大きな方向性は示されていることから、中間取りまとめをベースに「次期新エネルギー」に反映すべき考え方の議論を進めておき、改正案が明らかとなった時点で、必要に応じてこれまでの議論に修正等を加えていく形で進めることとしてはどうか。  
《想定：地域活用電源の考え方を元に、取組の方向性を議論。（地域マイクログリッドの構築に向けた取組）》

## (2) 目指す将来像について

- ・（1）の議論の中で、現在のキャッチフレーズについても、変更するのかどうかを議論。

## (3) 計画期間、目標年度等について

- ・現ビジョンは、計画期間を2016年度～2020年度までの5年間とし、中期目標（2020年度）、長期目標（2025年度）をそれぞれ設定。
- ・次期ビジョンの計画期間を5年間とした場合には、次期ビジョンの目標年度（2025年度）が現ビジョンの長期目標（2025年度）となり、新たに長期目標を定めるのかどうかの議論が必要。
- ・また、新たに長期目標を設定する場合には、計画期間の5年を超える形となることから、現行の5年間とするのか、長期目標を最終年度とする計画期間とするのか、併せて議論を。
- ・目標値についても、必要であれば見直しを検討。

## (4) 大型風力の取り扱いについて

- ・現在計画されている大型風力発電を、次期計画の目標値に入れるかどうか。  
※計画されている発電能力が大きいため、事業が中断された場合、導入実績のブレ幅が大きくなる。

## (5) 施策体系の見直しについて

- ・現ビジョンでは、再生可能エネルギーの導入促進に関する「課題」と、それらに対する「対策」という形で施策体系が整理されている。
- ・今後、国は分散型エネルギーシステムの構築といった方向に進むものと思われることから、次期ビジョンについても、そうした方向付けが必要となるものと思料。
- ・次期ビジョンの施策体系についても、そうした議論の中で併せて見直しを。